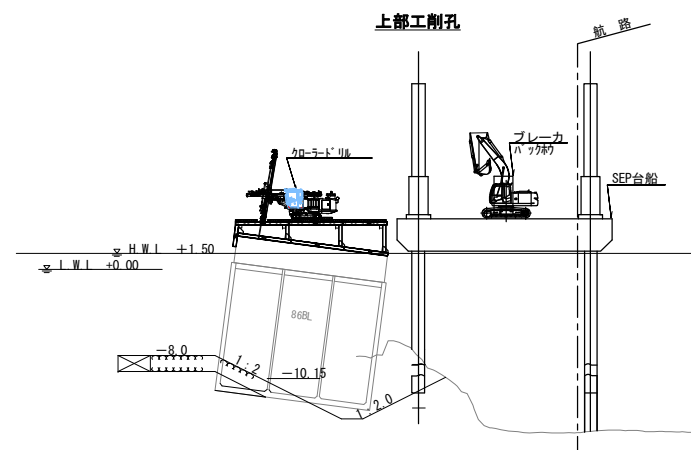


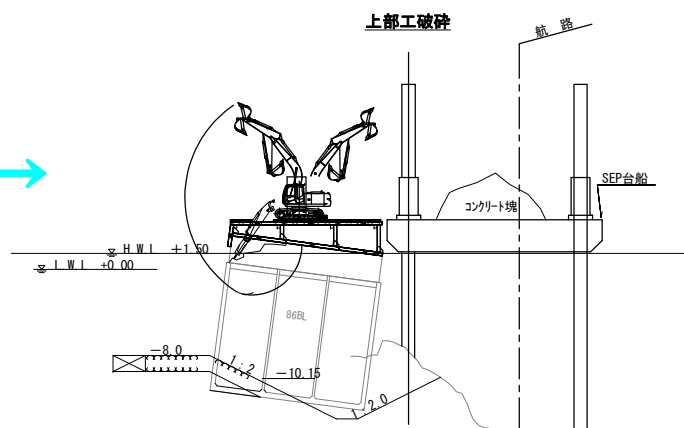


- ・SEP台船を流用ケーソンへ横付けする。スバットを伸展させ仮設鋼台設置高さへセットする。クレーン機能付きバックホウにより、仮設鋼台をセットする。
- ・クロードリルは自走により、SEP台船から仮設鋼台へ移動し、静的破砕材挿入用削孔作業を行う。

【使用機械選定理由】

①SEP台船
クロードリルの削孔は波浪による揺動を受けると、ロッドが曲がったり、折れたりするため削孔作業に支障を来す。その対策として水深の深い箇所はSEP台、水深の浅い所は仮設鋼台上で削孔作業を行う。また、クロードリル及びブレーカのSEP台船～仮設鋼台の自走移動を安全に行うことが可能となる。

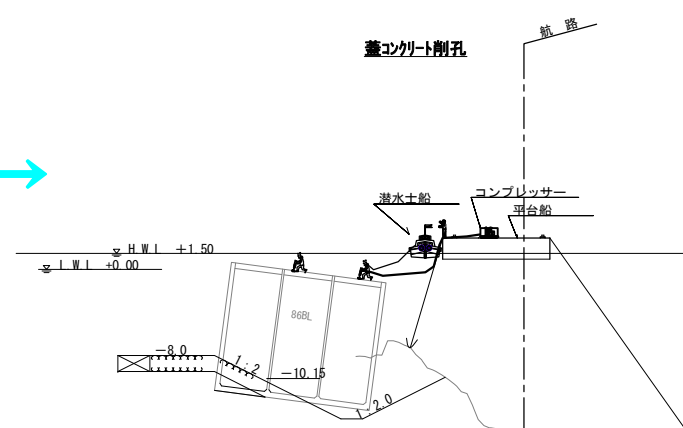
②クロードリル
削孔能力に優れ、人力削孔より短時間でφ65mmの削孔が可能となる。



- ・静的破砕剤により、上部コンクリートを一次破砕する。
- ・シヤンボブレーカにより、上部コンクリートを破砕する。
- ・破砕したコンクリート塊は、ブレーカをバケットに装備へ変更し、回収する。
- ・回収したコンクリート塊は、土運船に積み込み海上運搬し陸揚げする。

【使用機械選定理由】

①SEP台船
SEP台船は波浪の影響を受けにくく、施工機械や作業員の自走によって確実に仮設鋼台へ移動が可能。確実に稼働率を確保し、工期短縮が期待される。一方、高容量クレーン付台船(200t以上)を用いた、バックホウの送り込みによる仮設鋼台への移動が考えられるが、波浪の影響による台船とケーソンとの接触、作業員の仮設鋼台乗り降り、玉掛け作業等に危険を伴うと考えられる。

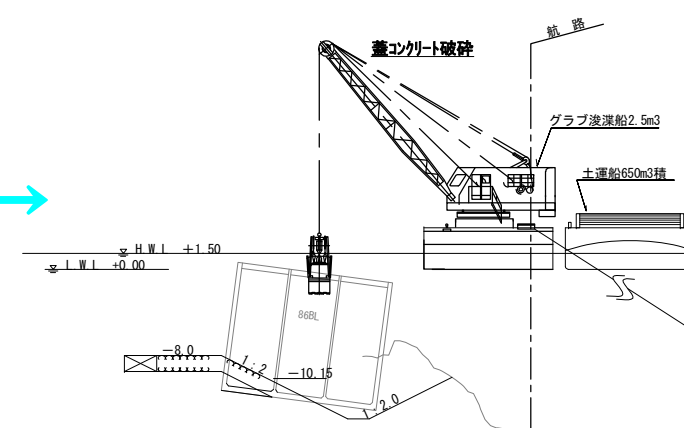


- ・上部コンクリート破砕後、潜水士にて蓋コンクリートへ静的破砕剤挿入用削孔(φ実孔径42mm)を行う。
- ・潜水士にて、静的破砕材を装填し一次破砕する。

【使用機械選定理由】

①潜水士船
対象の蓋コンクリートは上部工より水深が深く、傾斜面への削孔が困難となる。削孔機の操作性に優れた潜水士による削孔を行う必要がある。

②平台船(100t積級)
削孔作業に使用する、コンプレッサー積載用



- ・静的破砕剤により、蓋コンクリートを一次破砕する。
- ・グラブ浚渫船により二次破砕及び破砕材の回収を行う。
- ・破砕したコンクリート塊は、土運船により、海上運搬する。

【使用機械選定理由】

①グラブ浚渫船(2.5m3級)
蓋コンクリートは、静的破砕材の一次破砕により多数のクラックが発生されており、グラブバケットもしくは砕岩機による破砕が可能であると考えた。

②土運船(650m3積)
標準的なグラブ浚渫船との組み合わせ。

